

文部科学省「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン」採択事業  
新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン

# 韓国

## 昌原慶尚大学校病院・普州慶尚 大学校病院 訪問研修 実施報告書

2019. 6/26 - 6/27



# 令和元(2019)年度

## 昌原慶尚大学校病院・普州慶尚大学校病院訪問研修

### 実施報告書 目次

研修概要・参加者	2
1. 目的・背景	
2. 慶尚大学との交流の歴史	
3. 訪問先	
4. 参加者名簿	
5. 研修スケジュール	
<b>研修報告</b>	
九州大学 九州連携臨床腫瘍学講座 大田 恵一	8
九州大学 国際医療部 海外交流センター 田尻 姿穂	9
九州大学 医療技術部放射線部門 加藤 豊幸	10
九州大学 がんプロ学生（病態修復内科学）花村 文康	11
九州大学 がんプロ学生（病態修復内科学）大村 洋文	12



## 研修概要・参加者

### 1. 目的・背景

韓国のがん医療を実地に見学し、日韓の実地臨床事情の差異および臨床研究の発展する素地と臨床研究を行うための体制について議論する。なお本研修は、がんプロ大学院生の教育および担当教員のFDを兼ねて実施する。

### 2. 慶尚大学との交流の歴史

慶尚大学病院と九州大学病院は1992年に交流協定を締結し、毎年医療スタッフの相互交流を通じて研究・医療の協力及び学術交流を行っている。2004年には病院間の交流から大学間の交流に発展させ、大学全体の共同研究や研究者・学生の交流などが積極的に行われている。この交流に尽力され昨年度まで参加されていた慶尚大学病院の申先生の略歴とこれまでの交流内容について以下に示す。

申 鉉 夏（しん・ひょんは） 慶尚大学校名誉教授の略歴

1928年 韓国慶尚北道安東生まれ（90歳）

1946年 旧制大邱師範学校尋常科卒業後小・中学校勤務

1957年 高麗大学校文理科大学卒業後中学・高校勤務

1968年 韓国分教部（文部省）から日本へ派遣され、京都韓国学校及び福岡・長崎韓国教育院院長として6年間勤務

1974年～九州大学文学部（日語日文科）研究生を経て、九州大学大学院教育学研究科修士課程修了後、九州大学教育学部附属比較教育文化研究施設研究員、九州大学教養部・筑紫女学院短期大学非常勤講師歴任

1984年～韓国慶尚大学校師範大学教授、93年定年退官後再来日し執筆活動

著書に『アジアの文化と教育』（共著）『日本文学史』『日本古典文学』（ともに韓国語）、論文に「在日韓国人子弟の教育に関する実態と問題——実証的調査研究」がある。

慶尚大学病院との交流の年度別テーマ

期 間	派遣・受入れ		交流の具体的内容
	韓国へ訪問	韓国から訪問	
平成 17. 7.28～ 7.30	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・相互評価について申し入れ</li> <li>・連絡担当者の確定</li> <li>・相互評価枠組みの設定</li> </ul>
17.12.6～ 12.7		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリ部門については、両病院とも言語療法士の拡充が課題である事が確認された。</li> <li>・検査部門については、本院の検査部の検査システム等の説明を行った。</li> <li>・光学診療部から光ファイバーを活用しての遠隔医療の取り組みについての紹介を行った。</li> </ul>
18.9.14～ 9.15	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査部門とリハビリ部門の見学</li> </ul>
18.11.28～ 11.29		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児医療センター、ハートセンター、外来化学療法室、先進予防医療センター、放射線部、救命救急センターの施設見学</li> </ul>
19.11.19～ 11.30	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育・研修をテーマに職員を派遣</li> </ul>
19.12.11～ 12.12		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICU、CCU、周産母子センター、NICU、小児医療センターの施設見学</li> </ul>
20.9.29～ 10.1	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんセンター及び緩和ケアについての情報交換</li> </ul>
20.12.1～ 12.3		○	施設見学と意見交換 がんセンター（がん相談支援室・外来化学療法室）、放射線部、無菌病棟室（血液腫瘍内科）、先端医工学診療部（内視鏡トレーニングセンター）
21.12.16～ 12.19		○	施設見学と意見交換 <ul style="list-style-type: none"> <li>・Rシステム（電子医務記録システム）相互比較</li> <li>・適正な診療費請求に係る研修</li> <li>・新生児室・分娩室ほかの見学</li> </ul>
22.2.8～ 2.10	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護職員の教育体制（新人看護師の教育プログラムを含む）</li> <li>・外来看護の実態と他職種との業務分担</li> <li>・医療技術者に係る諸問題</li> </ul>
22.9.27～ 9.30	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院経営</li> </ul>
22.12.8～ 12.11		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CS(顧客満足)について</li> </ul>
23.11.9～ 11.12		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記念事業について</li> <li>・薬剤部及びリハビリテーション施設について</li> </ul>

24.2.10～ 2.12	○		・交流20周年記念行事
24.11.7～ 11.10		○	施設見学と意見交換 ・眼科、放射線科、薬剤部、看護部施設見学
24.4.17～ 4.19	○		施設見学と意見交換 ・EMR等、慶尚大学校キャンパス、海洋科学大学経営キャンパス見学
25.11.6～ 11.7		○	施設見学と意見交換 ・ICU等、外来化学療法室見学 ・伊都キャンパス見学
26.8.27～ 8.28	○		病院長表敬、施設見学、意見交換 ・昌原慶尚大学校病院建設予定地見学 ・診療協力センター、サイバーナイフセンター、新生児重患者室
26.11.5～ 11.8		○	病院長表敬、施設見学、意見交換 ・放射線科、アジア遠隔医療開発センター、内視鏡室、看護外来 ・伊都キャンパス見学
27.5.14～ 5.16		○	病院長表敬、施設見学、意見交換 ・アジア遠隔医療開発センター、診療録管理室、ストーマ看護外来、周術期、クリニカルスキルトレーニングセンター、防災センター、免震
28.6.9～ 6.10	○		病院長表敬、施設見学、意見交換 ・昌原慶尚大学校病院開院式に参加
28.12.13～ 12.15		○	病院長表敬、施設見学、意見交換 ・ハートセンター、アジア遠隔医療開発センター、内視鏡室、サプライセンター、特別室A
29.8.28～ 8.29	○		病院長表敬、施設見学、意見交換
29.11.28～ 11.30	○		病院長表敬、施設見学、意見交換 ・麻酔科、手術部、サプライセンター、アジア遠隔医療開発センター、ハートセンター、ヘリポート、免震施設
30.6.27～ 6.28	○		病院長表敬、施設見学、意見交換
30.11.28～ 11.30		○	病院長表敬、施設見学、意見交換 ・アジア遠隔医療開発センター、サプライセンター、薬剤部、外来受付等
1.6.26～ 6.27	○		病院長表敬、施設見学、意見交換 ・がん関連部署（サイバーナイフセンター、がんセンター、病棟）

### 3. 訪問先

昌原慶尚大学校病院 Gyeongsang National University Changwon Hospital

11, Samjeongja-ro, Seongsan-gu, Changwon-si, Gyeongsangnam-do, Republic of Korea 51472

普州慶尚大学校病院 Gyeongsang National University Hospital

79, Gangnam-ro, Jinju-si, Gyeongsangnam-do, Republic of Korea 52727

### 4. 参加者名簿

九州大学側

No	氏名		所属	身分
1	馬場 英司	ばば えいし	社会環境医学講座連携社会分野	教授
2	大田 恵一	おおた けいいち	九州連携臨床腫瘍学講座	助教
3	田尻 姿穂	たじり しほ	国際医療部	医員
4	加藤 豊幸	かとう とよゆき	医療技術部	技師長
5	西田 朋子	にしだ ともこ	薬剤部	薬剤主任
6	馬場 千エミ	ばば ちえみ	看護部	副看護部長
7	山本 直子	やまもと なおこ	看護部 放射線部・光学医療診療部	看護師長
8	江藤 直行	えとう なおゆき	事務部	総務課課長
9	有田 奈未	ありた なみ	事務部 国際診療支援センター	職員
10	大村 洋文	おおむら ひろふみ	病態修復内科学 がんプロ	大学院生
11	花村 文康	はなむら ふみやす	病態修復内科学 がんプロ	大学院生
12	山内 沙穂	やまうち さほ	事務部 総務課	職員

慶尚大学側

Changwon Gyeongsang National University Hospital (2<sup>nd</sup> hospital)

1 Director, Prof. Hyung-Bin Park (Department of the Orthopedics)

2. Secretary General, Gyun-Sik Lee

3. Director of the Planning and budget division, Prof. Chan-Hoo Park (Department of the Pediatrics)

4. Director of Nursing, Jong-Im Lee

5. Director of Pharmacy, Eun-Jung Kwak

6. Head of the Pulmonology department, Prof. Ho-Cheol Kim

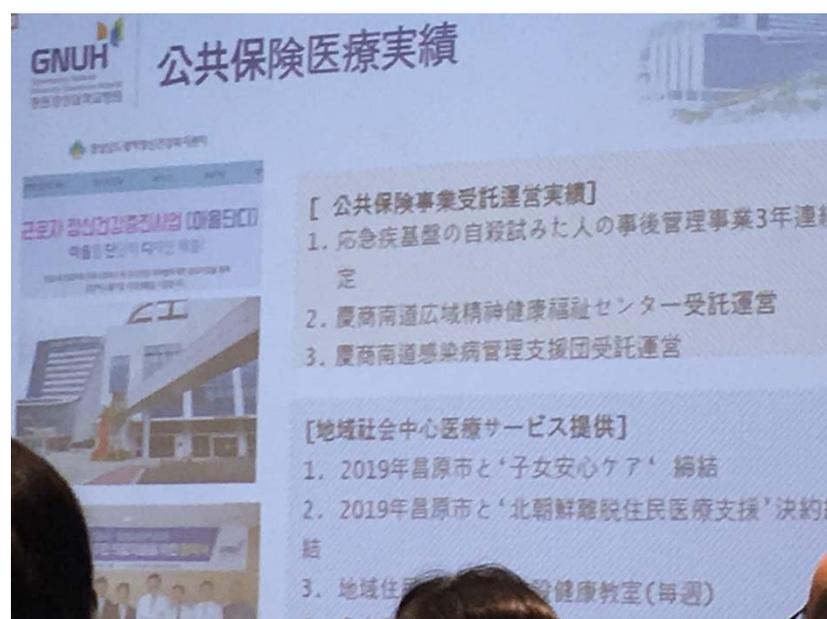
7. Head of the Hemato-oncology department, Prof. Hoon-Gu Kim

8. Department of the Radiation oncology, Prof. Hoon-Sik Choi

9. Department of the Radiation oncology, Coordinator Ji-Hee Hong

Gyeongsang National University Hospital (1<sup>st</sup> hospital)

1. Director, Prof. Hee-Suk Shin (Department of the Rehabilitation)
2. Vice director, Prof. Young-Joon Lee (Department of the Surgery)
3. Secretary General, Sung-Hae Park
4. Director of the Planning and budget division, Prof. Seong-Ki Ahn (Department of the Otorhinolaryngology)
5. Director of Nursing, Hae-Ran Bae
6. Director of Pharmacy, Eun-Ha Choi
7. Vice director of the Planning and budget division, Prof. Bae-Kwon Jung (Department of the Radiation oncology)
8. Director of Cancer research, Prof. In-Suk Jang (Department of the Cardiothoracic surgery)
9. Director of Cancer treatment, Prof. Jung-Hoon Kang (Department of the Hemato-oncology)
10. Team leader of Public Relations, Prof. Soo-Kyoung Kim (Department of Neurology)



## 5、研修スケジュール

日(曜)	時刻	スケジュール
26日(水)	9:20	福岡空港発 (BX147 便)
	10:30	釜山 (金海) 国際空港着・入国手続き、慶尚大学スタッフのお出迎え
	10:50	昌原慶尚大学校病院 (分院) へ移動
	11:20~11:40	訪問団紹介、病院紹介
	11:40~12:10	昌原慶尚大学校病院施設見学 (放射線腫瘍科外来、放射線検査室)
		移動
	12:30~14:00	昌原慶尚大学校病院職員との昼食・意見交換会
	14:00	普州慶尚大学校病院 (本院) へ移動
	16:30~17:00	訪問団紹介、病院紹介、記念品交換
	17:00~18:00	普州慶尚大学校病院施設見学 (核医学科、緩和ケア病棟)
	18:00~18:30	ホテル DongBang へ移動
	18:30~20:00	普州慶尚大学校病院職員との懇談会
	20:00	ホテル帰還、宿泊
27日(木)	7:00	朝食
	8:30	ホテル発
		移動
	12:30	釜山 (金海) 国際空港着・出国手続き
	14:00	同空港出発
	14:55	福岡空港着



## 研修報告

### 九州大学医学研究院 九州連携臨床腫瘍学講座 大田 恵一

九州がんプロ養成プランの一環として 2019 年 6 月 26 日から 6 月 27 日にかけて韓国南部に位置する慶尚大学校病院への訪問研修を行って参りましたのでご報告致します。私は現在、今回の視察団の団長である馬場教授の元で九州大学医学研究院九州連携臨床腫瘍学講座の一員として九州がんプロ事業に携わっている関係で今回の視察団の一員に任命されました。視察先である慶尚大学校病院は本院(普州慶尚大学校病院)と分院(昌原慶尚大学校病院)に分かれており今回は両施設とも視察することが出来ましたが外観および院内の設備ともに素晴らしいものでした。エントランスを抜けても光が十分に差し込む設計になっており一流ホテルのような開放感がある点で日本の病院との差異を感じましたし、患者さん達の表情も明るい印象を受けました。また、グローバル化という観点からも院内の外国人用の窓口がメインフロアに位置していることは日本の病院ではまだ整備が進んでいない点であると感じました。院内の各部門についても見学させていただきましたが、特に放射線照射装置に関しては最新の設備を備え患者さんへ最高の医療を提供するための投資は惜しまないという姿勢が確認出来ました。緩和ケア病棟の見学においては、私も国内の緩和ケア病院や緩和ケア病棟の見学は何度か経験してきましたが、明らかに韓国がリードしていると感じました。祈りの部屋、きつくなったら一時的に使用出来る個室、付添人のためのスペース確保、平静を保たせるための風景画の壁紙、防音設備など終末

期を迎える患者さんおよびその家族へ寄り添う医療が行えており従事する医療スタッフからも満足いく医療が提供出来ているという自信が伺えました。

昼食時に分院の先生方、夕食時には本院の先生方と意見交換を行う機会を得ました。いずれも院長先生と同じテーブルにつかせていただきましたが、印象に残った点としては、韓国では教授の中から投票で院長が選ばれますが任期は短く退任後は再度教授として勤務するという日本とは異なるシステムであることが分かり院長先生の若さに納得しました。また、癌研究部長の先生からは 11 月頃当院への視察の希望も承り、これまでの交流の成果および今回の視察の成功も実感いたしました。2 日間と短い行程ではありましたが、同行した若いがんプロ学生達も積極的に質問を行い非常に向上心を持って視察団に加わっていただけていることを嬉しく感じましたし、その他にも、普段同じ院内で働いているものなかなか話す機会のない他職種の方々との交流も大変貴重な経験となりました。正直訪問前は自施設の方が優れている点が多いのではないかと感じていましたが、むしろ取り入れるべき点が多く本当に有意義な視察となりました。次回、同院の視察団を受け入れる際には誇りを持って自施設を紹介出来るように明日からの診療・研究に注力していきたいと思えます。この度は貴重な経験をさせていただき誠にありがとうございました。

2019年6月26日～27日に韓国・慶尚大学校病院の訪問に同行させていただきましたので報告致します。今回、昌原慶尚大学校病院(分院)と普州慶尚大学校病院(本院)の2施設の見学を行いました。私は九州大学病院の国際医療部に所属しており、海外からの招聘医師のサポートを行っています。また臨床では歯科医師として口腔外科で診療を行っていますが、今回の訪問の目的は韓国での癌治療を中心に見学、事前情報では病院内には歯科がないとのことでした。そのため、韓国の医療事情を知ること、九州大学病院との違いを見ることを目的に参加しました。これまでベトナム、インドネシア、ミャンマーといった東南アジアの病院見学の経験があるため、それらの施設との比較も行いたいと思いました。

昌原慶尚大学校病院は、2016年に出来たばかりの新しい病院で、高い吹き抜けがありとても綺麗でした。722病床あり、地域密着の拠点病院です。

Oncology/Hematology 外来の見学の際、治療方針を説明する時に同席するドクターの人数(主治医他、病理医や放射線医)によって料金が違うということが特に印象的でした。入り口近くに外国人用受付は設置されていましたが、病院内はほとんどハンブルで表記されており、英語表記はあまり見当たりませんでした。

普州慶尚大学校病院ではホスピス病棟の見学を行いました。外出することが出来ない患者のための憩いの空間、最期を迎えるための広い防音の部屋が用意されていました。韓国でのタ

ーミナルケアについて丁寧に説明していただきました。

今回の訪問で韓国の歯科医師とお会いすることは出来ませんでした。夕食時に耳鼻科医師と話す機会があり、口腔領域の治療や歯科事情について少しお話を伺うことができました。普州慶尚大学校病院には、常勤歯科医師(口腔外科)が2名、非常勤歯科医師(一般歯科)1名があり、全身麻酔の手術は常勤歯科医師2名で行っているようでした。九州大学病院口腔外科が行っているような手術は形成外科や耳鼻科が担当しているとのことでした。日本では2012年から、「がん対策基本法」により、診療報酬に周術期口腔機能管理が新設され保険適用となりました。九州大学病院には周術期口腔ケアセンターが設置されており、全身麻酔前、化学療法・放射線療法前に口腔内周術期管理を行っています。普州慶尚大学校病院にも手術室が14室、40ベッドほど並んでいる広い外来化学療法室がありました。韓国での周術期管理はどうしているのか？常勤歯科医師のみではマンパワーの問題で対応できないと考えられますが、一般開業医との連携があるのか？その点を聞きそびれてしまったため機会があれば知りたいと思います。

最後に、今回の慶尚大学校病院への訪問団は馬場英司教授をリーダーとして、薬剤部や看護部、医療技術部等九州大学病院内の様々な職種の方々と構成されていたこともあり、日頃直接お話する機会のない九州大学病院内のスタッフのみなさんと一緒に過ごせたこともとても良い機会になりました。現地でお世話をいただいた慶尚大学校の方々にも深く感謝申し上げます。



昌原慶尚大学校病院 外国人用受付



## 九州大学病院 医療技術部放射線部門 診療放射線技師長 加藤 豊幸

今回の研修では、特にがん放射線治療についての現状を確認させていただきました。昌原慶尚大学校病院に導入されているリニアック (TrueBeam™) は、定位放射線治療や強度変調放射線治療 (IMRT) に対応し、高精度でのがん放射線治療が可能なシステムです。さらに、従来よりも短時間で治療できるモードを搭載し、スルーputの向上と患者への負担軽減に寄与しているようです。

また、普州慶尚大学校病院に導入されているサイバーナイフは、超多方向の照射で線量集中性が高く、治療回数の少な

い定位照射等の高精度治療に特化し、治療中に照射位置を補正・追尾できる唯一の装置です。導入されている最新のM6世代はMLC搭載で、治療部位は頭部から体幹部へ拡大、治療時間は1時間超から20分程度へ大幅に短縮しており、副作用を最小限にし、高精度ながん放射線治療を行うためには非常に有益であると思われます。

今回の経験を活かして、当院においても今後の装置導入の糧とし、日本の医療に貢献していけるよう尽力したいと考えます。

私たちは2019年6月26日に九州大学大学院連携社会医学分野の馬場教授を団長とし韓国南部の慶尚大学校病院へ訪問研修を行って参りました。慶尚大学校と九州大学は2009年から医学部を中心とした交流事業開始し毎年学生、教員の交換留学を行なっていますが2014年からは全学部を対象とした大学間学術協定を締結しています。慶尚大学校は韓国南西部に位置する慶尚南道を代表する国立総合大学であり、その附属機関である慶尚大学校病院本院および分院はそれぞれ釜山の西側の晋州市および昌原市に位置しています。今回は慶尚大学校病院の本院、分院の訪問を行い、慶尚大学校病院の取り組むがん医療を中心に見学や質疑応答を行いました。

まず韓国に到着した日の午前中は分院の見学を行いました。Hyung-Bin Park 院長と馬場教授による各施設の挨拶の後、化学療法外来や放射線腫瘍科の治療機器を拝見させていただきました。分院は2016年に開院した比較的新しい施設であり吹き抜けの開放的なエントランスホールや至る所にある患者向けの電光掲示板が印象的でした。初めの病院紹介で慶尚大学は病院の目的として「教育、研究、診療、公共」の4つを掲げていると説明を受けました。大学病院の役割としての「公共」とはつまり病院運営の柱の1つとして地域医療への貢献を掲げているということでした。以前がんプロ研修の一環でソウルのアサンメディカルセンターを訪問した際は韓国中から患者が診療を受けに来ると伺っていたので、韓国での医療は High volume center を都市部に集約して医療の効率化を行なっていると理解していましたが、当然ながら全ての患者がソウルまで通院することは不可能であり、特に高齢者や小児患者は地元でのサポートが必要になります。具体的な病院の地域医療への実績としては慶尚南道(韓国の南東部を指す)広域精神健康福祉センターの受託運営や慶尚南道感染症管理支援団の受託運営を行なっており、その他には地域住民のための健康教室や患者さんのための音楽会を毎週開催しているとのことでした。また韓国特有の事柄として2019年から昌原市と「北朝鮮離脱住民医療支援」を締結しているとのこと非常に印象的でした。このような背景からも韓国北部のソウルを中心とした医療圏とは

ある程度独立して、南東部の地域住民に対して質の高い医療を提供するという慶尚大学の強い気概が読み取れました。病院紹介の後には院内の化学療法外来および放射線腫瘍科(Department of Radiation Oncology)を見学し、Hoon-Gu Kim 教授、Hoon-Sik Choi 教授をはじめスタッフの方々より化学療法外来および放射線治療用機器(内照射、外照射)について説明いただきました。化学療法外来では多職種のスタッフによってカンファレンスや患者説明を行っておりカンファレンスルームにある巨大モニターを供覧しながら患者への説明を行うとのことでした。また昨年より日本で本格始動した次世代シーケンサーのパネル検査を用いたがんゲノム医療や個別化医療についてはまだ韓国では実臨床での運用体制は整っていないとのことでした。

分院への訪問の後、引き続き本院である慶尚大学校昌原病院を訪問し、Hee-Suk Shin 院長およびスタッフの方々のご挨拶および病院紹介が行われました。本院の紹介では10分程度のプロモーションビデオを拝見いただきましたが分院での説明同様地域医療に精力的に取り組んでいるとのことでした。慶尚大学病院は1987年に慶尚大学医科大学付属病院として開院し2007年には韓国で最初の地域がんセンター、2010年にサイバーナイフセンターを設立したとのこと。その後も2010年に心血管疾患センター、2019年に慶南圏域応急医療センターを開設し着実に韓国南東部の医療圏を支える施設になっていっているようです。全部で1,059床あるうち癌センターが133病床で占められており地下1階、地上6階の独立した施設となっていました。公共医療事業活動の一環として海外医療奉仕活動を行っており2001年から毎年継続して東南アジアを中心に診療活動を行っており年間1,000~5,000人の患者の診療や手術を行っているとのことでした。その他印象的だったのは各診療部門の教授が日本と比べて年齢が比較的若く、また診療や研究のみならず直接的に病院の運営や企画にも携わっているということでした。韓国では一般的なことなのか、慶尚大学病院特有のことなのかは定かではありませんが、日本よりも各部門のドクターが一丸となって病院を運営しているという印象が顕著ではないかと感じました。施設見学では主に放射線

腫瘍科および緩和ケア病棟を案内していただきました。緩和ケア病棟では主に慶尚大学病院で治療を受けた悪性腫瘍の患者さんが入院しているとのことでした。病棟の床が歩きやすく転倒しても怪我のしにくい素材でできていたり、様々な宗教的背景を持った患者さんが使用できる礼拝所や、最後の時を家族と過ごせる大きな個室や廊下の装飾品に至るまで患者がいかにか心地よく過ごせるかが考え抜かれており、ソフト面はもちろんハード面にも強いこだわりを感じました。私の経験上、自施設に緩和ケアの専門病棟がない場合、他院へ紹介、転院するケースが多くありますが延命治療が困難になり病状の進行した患者さんは往々にして転院が困難になる場合が多く設備面で緩和ケアの不十分な病棟で終末期を過ごすことが多々見受けられます。大学病院のような高度先進医療に特化した施設にこ

のような充実した緩和ケア病棟があることは患者にとってもがん医療を行う医療者にとっても非常にメリットの大きいことだと思われました。

今回の韓国訪問では韓国の医療体制を学ぶとともに現場の医師と交流を深めることができました。この研修を通して、科学者であり医療者である医師は国境や社会情勢に左右されることなく常に患者の利益を考えながら相互に協力し高め合うことが重要であると再認識しました。最後に今回の訪問研修を企画下さり、貴重な機会を与えてくださった馬場教授、Hee-Suk Shin 院長、Hyung-Bin Park 院長をはじめ九州大学、慶尚大学校病院のスタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。

## 九州大学大学院 医学研究院 病態修復内科学 がんプロ大学院生 大村 洋文

私たちは令和元年 6 月 26 日より 2 日間、慶尚大学校病院で馬場教授の引率のもと、訪問研修を行って参りました。慶尚大学校病院は本院および分院に分かれ、それぞれ釜山の西側の晋州市および昌原市に位置し、金浦国際空港より車でそれぞれ 1 時間、2 時間程度の距離にあります。当時は残念ながら雨天でしたが、通訳・案内役である Sakano さんと Ki-Ho An さんに空港までお迎えいただき、慶尚大学校分院および本院へ訪問しました。そこで Hyung-Bin Park 院長、Hee-Suk Shin 院長をはじめスタッフの方々のご挨拶の後に当院の医療の状況について施設見学を通じて学ばせていただきました。

慶尚大学校病院は韓国における high volume center の一つであり、病床数は分院と本院を併せて 1466 床と九州大学病院とほぼ同規模の医療施設となります。また教育、研究という大学病院としての機能だけでなく地域医療を担っており、地域がんセンター(Geongnam Regional Cancer Center)、地域心血管センター(Regional Cardiovascular Center)、地域リウマチ・変形性関節症センター(Regional Rheumatism & Osteoarthritis Medical Center)が併設され、地域に密接した医療を行っております。

私達は最初に分院である慶尚大学校昌原病院を訪問し Hyung-Bin Park 院長およびスタッフの方々との挨拶、慶尚大学校スタッフによる病院紹介の後、病院施設を見学させていただきました。当院は 2016 年竣工と新しく、院内には売店や銀行など設備が充実し、またふと見上げるとガラスの天井から空が見える吹き抜けとなっており、開放感のある病院でした。化学療法外来および放射線腫瘍科(Department of Radiation Oncology)を訪問し、Hoon-Gu Kim 教授、Hoon-Sik Choi 教授をはじめスタッフの方々より化学療法外来および放射線治療用機器(内照射、外照射)について説明いただきました。化学療法外来の説明室にはモニターが複数設置され多種のスタッフによる症例の検討ができるようになっており、また放射線治療用機器も IMRT をはじめ新しい機器が設置されておりました。

分院への訪問の後、引き続き本院である慶尚大学校昌原病院を訪問し Hee-Suk Shin 院長およびスタッフの方々のご挨拶の後、病院施設を見学させていただきました。当院では主に放射線腫瘍科および緩和ケア病棟にご案内いただきました。放射線腫瘍科では放射線治療設備(サイバーナイフ)を見学させていただきました。また緩和ケア病棟では終末期の患者さん、および家族の苦痛を癒すための設備の工夫について説明を

受け、また韓国における緩和医療の状況について質疑応答を通して学びました。病棟内は絵画や植木など入院中の患者さんの目を楽しませるようになっており、特に印象的であったのが病棟の一角にしつらえた伝統家屋と人形のミニチュアでした。日本では亡くなることを「隠れる、逝く、卒する」などと表現し、(現世から)離れるというニュアンスがあるかと思われませんが、韓国では亡くなることは「帰る」ことであり、ミニチュアで表現した帰る先の世界の様子を患者さんが見ることで、心を癒やす効果があるとのことでした。死に対する両国間の感性の違いを感じこそすれ、その根底にあるのは spiritual pain へのケアという共通のものです。また祈りの間、看取りの間は防音壁となっており、プライバシーへの配慮を感じました。当院でがん治療をうけた方のうち 2 割がこの緩和ケア病棟で過ごし、残り 8 割が他の病

棟や病院で亡くなるとのことで、日本同様終末期医療の場が不足している印象を受けました。

今回の訪問を通じ、日韓医療機関の親睦を深めるとともに、隣国のがん医療の状況について知識をアップデートすることができたことは、がん診療に携わる者として貴重な経験であったと考えます。

最後に今回の訪問研修を企画下さり、貴重な機会を与えてくださった馬場教授、Hee-Suk Shin 院長、Hyung-Bin Park 院長をはじめ私たちが温かく迎えてくださった慶尚大学校病院のスタッフの皆様にご心より御礼を申し上げ、筆をおかせていただきます。

---

---

文部科学省『多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン』

採択事業

令和元（2019）年度

昌原慶尚大学校病院・普州慶尚大学校病院 訪問研修 実施報告書

発行 令和2年（2020）年1月

新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン 事業運営推進協議会

<http://www.k-ganpro.com>

---

---

文部科学省『多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン』  
採択事業 新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン

韓国 昌原慶尚大学校病院・普州慶尚大学校病院 実施報告書

---

発行 令和2（2020）年1月  
編集・発行 新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン 事業運営推進協議会  
（事務局：九州大学医系学部等事務部）  
ijsganpro@jimu.kyushu-u.ac.jp  
<http://www.k-ganpro.com/>